

小林よしかず議員の一般質問 (12月9日) 主な質問と答弁



冬季五輪開催都市として平和と友好交流の役割発揮を

小林議員は、冬季五輪を開き平和首長会議に加盟する長野市が、松本市で来年度開かれる平和首長会議国内加盟都市会議の成功へ積極的役割を發揮すること、松代大本營地下壕の市文化財指定をすすめることなどを求めました。

平和首長会議の国内加盟都市会議が広島市と長崎市以外で開かれるのは初めてです。**小林議員**は、長野市が友好交流している中国・石家庄市に同会議への参加決断をよびかけ、松本市での開催を県内自治体の加盟参加促進と核兵器廃絶の取り組みの前進につなげるよう市の考えをたずねました。

加藤市長は、松本市での開催を歓迎し、県下の加盟自治体と連携して「できる限りの協力をしたい」と表明、未加盟自治体の参加に期待を寄せました。松代大本營地下壕については、「我が国の近代史を理解するうえで欠くことのできない重要な歴史遺産であり、国が責任をもって後世に伝えるべきもの」と積極的な認識を示しましたが、**教育長**は「文化庁の報告を待つ」との答弁でした。**小林議員**は、「指定に向けて市としても研究してはどうか」と市長に再質問、**加藤市長**は「大変重要な歴史的遺産と私は思っており、今後も検討してまいりたい」と答えました。

小林議員は、2018年冬季五輪開催が決定した韓国ピョンチャンとの交流と冬季五輪開催都市会議の創設について質問。**企画政策部長**は、「日韓の外交問題が深刻化し、友好交流も情勢を注視せざるを得ない状況」にあるなかで、「事前合宿を誘致できれば大きな経済効果と国際交流、国際親善に寄与する」として、友好交流の視点を変えて事前合宿の誘致に力を入れ、交流につなげたいと述べました。冬季五輪開催都市会議の創設は「有意義であり、検討を続ける」としました。

中山間地の活性化へ 旧町村の支援、大学等との連携について

中山間地活性化プロジェクトについて**小林議員**は、旧合併町村で行われていた交流事業などの独自施策を生かすこと、「日本で最も美しい村連合」への長野市の中山間地の加盟や、地域活性化の調査・研究をすすめている地元大学との連携・共同していくことについて、見解を求めました。

副市長は、旧町村で独自に行われている都市交流については住民自治協議会に交付しているやまざと支援交付金等で対応してほしいと答弁。**小林議員**が「旧町村の独自の交流事業には市の財政支援も必要ではないか」と再質問したのにはたいしては、「合併町村で成果の上がった事業については、財政面も含めて再検討をすすめたい」と答え、「日本で最も美しい村連合」への加盟は各住民自治協議会と相談するとししました。また、大学等との連携については、現在、信州大学地域戦略センターと連携して中山間地の耕作放棄地を活用した再生可能エネルギー創出の可能性を調査しており、これらを含めて、地域学術機関等との連携で事業化への道筋をつけていく考えを示しました。

ごみ焼却施設 規模と灰溶融炉建設計画の見直しを

小林議員は、長野広域連合ごみ焼却施設の規模にかかわって、長野市のごみ排出量の予測や削減目標などを問うとともに、大量生産、大量消費社会から循環型社会へ、自治体財政負担の削減なども考え、施設規模の縮小や灰溶融炉の建設計画の見直しを検討するよう主張しました。